ESGの取り組み［環境(E)］

基本的な考え方～環境保全にこだわったモノづくり～

自然災害の甚大化は、モノづくりの工程で燃料や原材料を使用する当社に資源の枯渇などのさまざまな事業リスクをもたらします。一方で、資源循環や環境負荷の低減に貢献する当社グループの製品・サービスが新たなビジネスの機会につながると考えています。このようにリスク・機会の両面から環境課題に取り組むことで、自社のみならずお客さまとの価値共創により環境課題を解決し、社会から必要とされ続ける企業グループを目指します。

「環境」を冒頭に掲げた企業理念

当社は、すべての事業活動において環境保全にこだわったモノづくりに励んでいます。5項目からなる企業理念の1つ目に「私達は水と大気と生命(いのち)の惑星、地球を大切にし、人間社会のライフラインを守ります。」を掲げています。

◀「クリモト環境基本方針」の詳細はこちら

再生可能エネルギーとCO_2排出量削減の推進

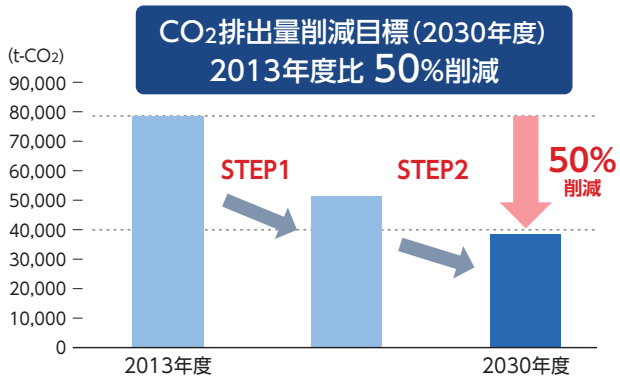
2050年カーボンニュートラルを目指し、2030年度のCO_2排出量削減目標を設定。国が掲げる同年度の目標を上回る、2013年度比50%削減の達成を目指します。

STEP1

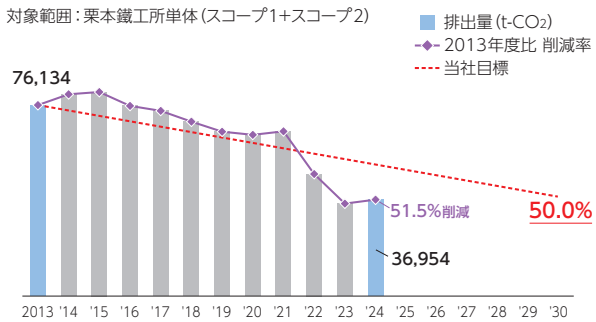
本社を含む関西エリアの事業所、生産拠点などを中心に使用電力を再生可能エネルギー由来のカーボンフリー電力へ切り替えるなど、スコープ2(エネルギー起源の間接排出)のCO_2排出量削減を実施。(2022年度から導入済み)

STEP2

省エネ機器への更新などに加え、生産性向上に向けた設備投資時にCO_2排出削減に寄与する生産体制、燃料転換を行いスコープ1(直接排出)のCO_2排出量削減を実施。



※上記目標はすべて栗本鐵工所単体でのスコープ1、スコープ2の合計



※2024年度の削減率は、2023年度に引き続き50%を超えましたが、大きな削減には至らず横ばいです。現状、CO_2排出量は当社製品の生産量の増減により影響を受けますが、生産量の影響を受けない施策を進めていきます。

外部からの評価

◉ CDP

当社はCDP質問書を気候変動対策の経営指針とし、得られたスコア評価をステークホルダーの皆さまに情報開示して、脱炭素経営を促進しています。2024年度は「気候変動」と「水セキュリティ」において、「それぞれの環境課題に対するリスクやその影響を認識し、行動している」ことを示すマネジメントランク"B"評価を受けました。

◉「令和6年度おおさか気候変動対策賞特別賞」

本賞は、大阪府が気候変動対策の推進に積極的な企業や団体を表彰するもので、当社の温室効果ガス排出量削減の実績(基準年度比削減率50%以上)が高く評価されました。

リスクへの対応～自社のGHG削減～

リスク

1. 炭素税と排出権取引
2. 化石燃料の使用に関する規制
3. 原材料コストの変化

水道用ダクタイル鉄管（水道管）製造工程のCO_2排出量削減

POINT!

- キュポラの燃料を化石燃料コークスからバイオマス燃料に転換
- バイオマス燃料の実用化に向けた共創開発

鋳鉄溶解炉（キュポラ）

バイオマス燃料
（そば殻バイオコークス）

機会への対応～社会のGHG削減～

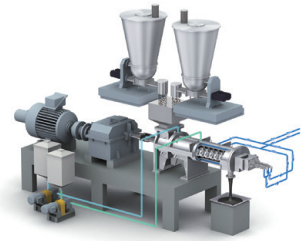
機会

1. 再エネ・省エネ政策の導入
2. 商品の需要変化

二次電池材料の製造をサポート

POINT!

- 二次電池で輸送機器の電動化を促進し脱炭素化に貢献
- 二次電池製造プロセスの連続生産プロセスを共創で具現化

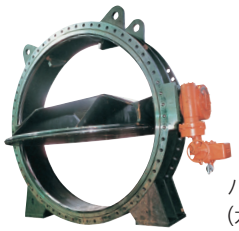


連続式混練機
（電極スラリー
製造プロセス用途）

クリーンなエネルギー発電をサポート

POINT!

- 水力発電や太陽光発電などに欠かせない資材や、自動車のEV化に必要な電池材料の製造機器を提供し脱炭素社会の実現に貢献



バタフライ弁
（水力発電用途）

サプライチェーン全体のCO_2排出量削減

当社グループでは、自社のCO_2排出量（スコープ1、2）に加えて、サプライチェーン全体の排出量（スコープ3）を算定しています。初年度の2021年度は全体の規模把握を目的とした試算、2022年度より正式な算定を開始しました。今後 、算定範囲を単体から連結に拡大するとともに精度を高めながら算定を継続し、サプライヤーにも働きかけサプライチェーン全体でのCO_2排出量削減に取り組み、2050年のカーボンニュートラルを目指します。

サプライチェーンを通じたCO_2排出量（栗本鐵工所 単体）

排出区分		算定対象	排出量（万tCO_2）		
			2022年度	2023年度	2024年度
スコープ1［直接排出］		自社での燃料の使用や工業プロセスによる直接排出	4.02	3.53	3.53
スコープ2［エネルギー起源の間接排出］		自社が購入した電気・熱の使用に伴う間接排出	0.13	0.16	0.17
スコープ3［その他の間接排出］	カテゴリー1	購入した製品・サービス	27.63	23.94	23.55
	カテゴリー2	資本財	0.44	0.60	0.69
	カテゴリー3	スコープ1、2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動	1.40	1.28	1.26
	カテゴリー4	輸送、配送（上流）	1.15	1.52	1.39
	カテゴリー5	事業から出る廃棄物	0.35	0.32	0.38
	カテゴリー6	出張	0.02	0.02	0.02
	カテゴリー7	雇用者の通勤	0.08	0.07	0.08
	カテゴリー9	輸送、配送（下流）	0.01	0.01	0.01
	カテゴリー11	販売した製品の使用	11.61	6.57	14.08
	カテゴリー12	販売した製品の廃棄	1.13	1.14	1.15
サプライチェーンを含めた温室効果ガス排出量の合計			47.96	39.16	46.32

※カテゴリー8【リース資産（上流）】、10【販売した製品の加工】、13【リース資産（下流）】、14【フランチャイズ】、15【投資】は該当する算定項目がないため対象外としています。